

# 基礎から身につく 財務の教室



八木正宣●やぎ・まさのぶ  
税理士事務所 SBL 所長・税理士。  
会計事務所等での勤務を経て平成  
16年税理士事務所 SBL を開設。  
企業支援と相続関連業務に強み。

第13回 今回のテーマ

## 貸借対照表を用いた安全性分析

**今** 回から数回にわたって、安全性分析の方法について見ていきます。

### Q1 なぜ貸借対照表を活用すると企業の安全性が分かるの？

安全性分析とは、企業が資金繰りに行き詰まって倒産しないか検証することをいいます。こうした安全性分析を行う際、貸借対照表を活用することは有効です。本連載でも見てきたとおり、貸借対照表は、返済しなければならぬ負債と返済する必要のない自己資本（純資産）は基本的に返済の必要がなく自己資本と呼ばれることも多い）を原資として、それらをどのように運用しているかを見るものです。負債には返済期限があり、その負債を期限までに返済できないと企業の信用が失われ、事業の継続が困難になります。企業の安全性を分析する際には、負債の返済原資となる資産がどのくらい準備されているか（資金の運用と調達のバランス）、資

金調達に無理がないか（資金調達の健全性）などを見極めることが求められます。こうした分析を行うのに貸借対照表を活用することが可能なのです。

### Q2 資金の運用と調達のバランスは、どう分析するの？

資金の運用と調達のバランスを分析する際には、短期的な安全性と長期的な安全性について見極めることが求められます。このうち短期的な安全性については、「直近における返済能力」を見極めることが必要です。これを分析する主な指標として流動比率や当座比率があります。

#### ① 流動比率

1年以内に返済期限が到来する負債に対する、1年以内に換金できる資産の割合を見る指標です。流動負債よりも流動資産のほうが多ければ安全性が高いといえます。流動比率は「（流動資産÷流動負債）×100」で算出でき、200%以上が望ましいとされて

います。  
② 当座比率  
1年以内に返済が求められる負債について、当座資産（流動資産のうち特に換金性の高い現預金や受取手形、売掛金などのこと）でどのくらい準備しているかを見る指標です。当座比率は「（当座資産÷流動負債）×100」で算出し、100%以上が望ましいとされています。

#### ● 固定比率は低くほど良い

長期的な安全性を分析する主な指標としては、固定比率と固定長期適合率があります。

#### ③ 固定比率

換金性の低い固定資産を、自己資本でどれだけ調達しているかを見る指標です。投資効果が長期にわたる固定資産が返済する必要のない自己資本でどれだけ賄われているかを読み取ることで、企業の安定性を確認できます。

固定比率は「（固定資産÷自己資本）×100」で算出されます。数値は低いほど良く、100

%を超えている場合は借入金に頼って固定資産を購入していることを意味します。

#### ④ 固定長期適合率

設備投資を金融機関からの借入で賄っている企業は少なくありませんが、設備投資したお金の回収は長期にわたることが多く、その借入金の返済が長期で組まれているか見極めることも大切となります。

固定長期適合率は、自己資本と固定負債を含めた長期資金のうち固定資産の占める割合を見たものです。「固定資産÷（自己資本+固定負債）×100」で算出でき、100%を超えると長期資金だけでは固定資産を賄えず流動負債を充てていることとなります。

### Q3 資金調達の健全性を分析するには、どんな方法があるの？

資金調達の健全性を分析する指標には様々なものがありますが、最も代表的な指標として自己資本比率があります。

自己資本比率は、企業全体の資金調達額（負債と自己資本の合計＝資産合計）のうち返済の必要がない自己資本の占める割合を表しています。「自己資本÷資産合計」×100で算出でき、数値が大きいくほど安全性が高いといえます。一般的に、30%以上が望ましいとされています。

#### ● 増資や内部留保で改善

企業が倒産する大きな原因は、手元に現金がなく支払いが滞ることです。倒産を避けるためには流動資産や当座資産を十分確保する必要があります。ただ、そもそも負債が少なければ支払いに困る機会は少なくなるため、自己資本で運営することがより安全であると考えられます。

自己資本比率を高めようとするならば、増資を行って資本金を増額するか、毎期利益を計上して内部留保を厚くしなければなりません。自己資本比率の高い企業は、ある程度年数を重ねた企業に比較的多く見られます。

## 確認テストを解いてみよう

### 問題1

企業の安全性分析について述べた次の①～④のうち、正しいものを選んでください。

- ① 流動比率は200%未満が望ましいとされている
- ② 当座比率は100%未満が望ましいとされている
- ③ 固定比率が100%を超えている場合、借入金に頼って固定資産を購入していることを意味する
- ④ 固定長期適合率が100%未満になると、流動負債で固定資産を賄っていることになる

### 問題2

次の①～④のうち、自己資本比率の計算式を選んでください。

- ① (固定資産 ÷ 自己資本) × 100
- ② (自己資本 ÷ 資産合計) × 100
- ③ 固定資産 ÷ (自己資本 + 固定負債) × 100
- ④ (自己資本 ÷ 負債合計) × 100